京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久紳一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所　京城新報社

寄書

民團當局の專橫

旭川

激甚なりし當地居留民團民會議員の選擧も無事に終了したる翌二月一日午前十時頃の事なりと記憶せられよ、予は南大門方面より太平町、太平町より長谷川町に出づる迄に於て小學校生徒の其母若は父に叱責せらるゝもの五を見たり、而して其の叱責の辭は悉く一なり曰く「何に又虚言を云ふ今日學校の休みの筈がない、ウム日曜か大祭日か左樣デャあるまい」と、併し事實は到底事實なり、全く當日は或る二三級生は其の敎室の民團議員選擧開票場に充てられたる故を以て泥濘を凌ぎて辿り着きたる校門より然り其の校門より逐ひ歸されたるなりき。此は實に豫期せられざる事なれば父兄の之れを怪むも至當なり、予も又之れを當局者の專橫なる處置なりと思惟す。

然れども予は之れが爲めに[illegible]犧牲の民團議員選擧、異に重要事なるべし、爲めに最も大切なる一日を更らに蹂躪せしむる迄に重要事とは思惟せず、否他に其の場所を得るに難かる土地に在りては之れ又止むを得ざるべしとするも我京城に在りては此の心配はなし、本願寺もあり、劇場もあるに非らずや、斯は地の利を得ずと云ふか、大八百歩の勞を省いて小兒一日の敎養を空うす此れ果して策の得たるものか。

始め南大門小學校を選擧場に充つべしとの議を耳にし而して三十一日の一日を犧牲とすることに論なかりしは既定の事なりしを以てなり、翌二月一日を休校したる事も又多く咎むるには非ざる何人も之れを至當事の如く思慮せその際に大八的なる樣ならざるが爲めにして以後如何なる場合にも校舍を公會堂視するなからんことを希望し更らに此の機を利用して學務當局の主張みる干渉を斯くの如き場合に之に試むることの必要なるを注告し更らに民團事業として一大公會堂の建設を見んことを期待するものなり(二日稿)

●朝鮮復航停止

山縣政務總監より關東都督府民政部に向け公文を以て爾今滿州及び北清一帶をペスト流行地と見做し同地を發し又は經過したる船舶は總べて各稅關に於て十日間停船を命じ檢疫を經たる上ならざれば旅客一切の上陸を許可せざるは勿論襤褸古綿古着類古紙類古革皮類古毛布類古敷物及び古麻袋其他病毒傳播の虞ある貨物の外大豆小豆唐黍其他食用品食料原料品も完全なる消毒困難なるを以て一切輸入を禁止すべき旨通牒ありたる由右に付郵船商船の兩會社は爾今當港より復航朝鮮廻り定期船の航行を停止したるも一体商船會社の立場よりすれば寧ろ航路を短縮し仁川留にするの利益なるも滿洲は主として朝鮮米に供給を仰ぎ居れるが故に絶對に仁川經由大連航路を全廢するを得ざるべしと云ふ

●浦鹽と日本酒

浦鹽に於ては露曆一日より日本酒一樽に付百五十圓の稅金を課することに決定せりと云ふ

●關東州無線電信

關東都督府にては豫て大連附近に一無線電信局設置の計畫あり之に依て朝鮮に設置さるゝ小靑島、木浦島の無線電信局と通信の交換を開始し兩者の連絡を執るべく同時に大阪商船の大連定期並びに滿鐵の大連上海定期船とも通信交換の途を開く筈なるが頃日本都督府は該計畫の爲め遞信省に技術家招聘方を交渉中なりと

●防疫本部通報

奉天防疫本部より二日黑疫狀況に關し明石總長に達したる公電左の如し

新患大連隔離所内三、長春一、芝罘頭事の報告によれば同地及附近に患者九十六名に達し新患一日平均五六名尚ほ蔓延の兆ありと云ふ

▲本日委員會に於て左の通り決定せり

▲制規の期限を滿了したる隔離者は各等を通じ乘車を許すことを得但し他の者と接觸せしめず隔離所より直に乘車せしむ

▲工事に使用せんとする苦力は願出により制規の期間本部指定の隔離所に收容の上輸送する事

●馬山民團議員

左の如く當選したり

▲百八十四點 濱田七十郎▲百六十五點 自加田平三郎▲百六十三點 三宅吉郎▲百五十五點 藤崎供秀▲百五十三點 松原早藏▲百五十三點 夏目哲三▲百五十點 百木惠一▲百四十九點 山本國次▲百四十九點 松本文藏▲百四十六點 弘濟藏▲百四十三點 引重節之助▲百三十八點 吉田益太郎▲百三十六點 古藤次郎▲百卅二點 沖田敬太郎▲百十四點 村上竹太郎▲百十四點 諏方武骨

外事一束

▲露佛兩紙と露淸戰爭　巴里のマタン露都のノーウオエウレミャ兩新聞は露淸兩國衝突の危機切迫しつゝあり露國は遠からず淸國に對し最後談判書を送り蒙古に大兵を派遣すべき旨宣言すべしとの報道を揭げ人心の注意を惹けり

▲獨皇儲の來期繰上　今回御來遊の獨逸皇儲殿下は御旅程の淸國はペスト流行の爲め其訪問を中止し豫定の四月二十五日横濱入港を早められ同月上旬御入港に變更さるべしと

▲統一黨の不滿足　二月六日より開會の英國議會は非常の興味を惹き且つ重大視されつゝあるに拘はらず統一黨員間に不滿足の氣充ち互に相排擠し居れり然れども自由黨の一團結は强硬なりと一般に承認せらる

▲排日派遂に敗る　昨紙所報加州議員よりの提案に係る日米條約第二條但書刪除反對建議案は三十日討議に上り二十五に對する十一にて遂に排日派の敗北に歸せりと

▲ペストの爲め轉任　淸國は李長春道臺のペスト防疫事務綾職に失せりとて吉林へ轉任を命じたりと

山中鹿之助

七十二回　西尾麟慶演

尚ほも浮舟は　浮「此の上は良醫の教へを守ッて、天地の神佛に誓ひ自分の齢を縮めても良人の病ひを全快なさしめんと勤めまする、許らすも御目もじいたしました、拙は妹が戀人であれはこそ、然しか、又た義俠ある其の御心に縋つて力なき妾をれ助け下され、一度絶たる尼子家の家名再興をいたするやう御助力下されましや、如何で御座りませう」と涙と共に頼みました、之を聞ひたる炎之助はホット一息炎之助は「必ず御心配なさるな」と慰さめました、浮舟は懐身放さず貯へ置きましたる金一包、是は如何なる事ありとも此の金ばかりは良人の身の上のことに良き名醫あつて良藥の功驗に助かるが如き事なさ外は出すまじと思ひし金なれど、之を出しまして炎之助に示し　浮「僅かなれども此の金子、之を以て其の変にてあるべからず支度致して妹が許へ參らばや」と云ふに炎之助も諾ひて　炎「然らば仰せに從ひ申すべし」と其の夜はどある一軒の怪しげなる旅店に一泊いたしました、翌日旅の用意をいたし室の淨なる廓町傾城樓の遊君浮橋太夫のもどへ尋ね參りました、一人は戀人一人は血肉を分けました姉が其の良人浮舟の面を見つめて居ましたが　炎「ア一ア見上げたる其の貞節の志し、實に感服いたしたり、恰度宜き折柄で御座るにより、和女の葛籠は自分が預り、拙は久々にて浮橋にも對面致し、而して此の末ともに談合仕らんにて、の屍骸を葛籠に入れて炎之助之を背負ひ、對面をいたしました、浮橋は姉浮舟より始終の話を聞きまして、涙にくれましたが何は兎もあれ自分の處へ置くと云ふ譯にも參りませんから、同じ廓内の懇意なる家の二階に一時宿らしめて時節の來るを待たしめ、又長崎通ひの船に賴んで良醫の藥を得て、何うかいたして姉婿の魂の緒をつなぎがんと云ふ事のみに心をつくし、又二ッには尼子の家の再興のことを只管に念じ頻ひます三人の胸中、押し量れて哀れなり、借て話しこゝに別れまして、上月城内の者別れ〳〵に退散いたしました、尼子の勇士は皆目ざすは京都中御円教之卿の御館を志ざして參ります、九重姫にも心細くも落ち玉ふ後ればせに腰元柵も馳せついて、九重姫の手を引いて山蹈づたひを逃れました、人の噂さを聞くに尼子九郎左衛門は、九重姫を召捕て己れの妾となさんと云ふので穿鑿嚴重なりと云ふ事でありますから、ソコデ柵が工風を考ねまして、先づ九重姫も自分も顔へ髮附油を解てスッカリ塗り其の上へ厚化粧をいたしまして、剝ないやうにいたし又其の上へ色の變りました繪の具をなすり、夫れへ梅干を所班に貼つけまして、一見して梅毒の患者の如き姿に替へ、手足にも同じやうにいたし、髪を振りみだし三タ目と見られぬ姿になりまして、漸々打手の目をくらまし憂き艱難を重ねまして、辿り〳〵て參りましたのは丹波の國大江山の山脈つゞきへかゝりますと向ふに立札が建て御座ひます、其建札を見ますると

一　何人によらず一宿一飯施行仕り候ふ　丹波太郎

右の如く筆太に書ておりますす、又其の脇に一枚別段に建てありまして示しますと、之を見とめて柵が　柵「た姫樣〳〵今宵は宿借るべきところも御座ひませんから、慈悲に此の建札の家に參り一夜を借り受けて休みませう」と云へば九重姫も諾ひて　九「然らばさう」と連れだつて參りました、彼是宿の二里も參つたかと思ふ折りしも、向ふの方に岩が岩が斯う折り重つてゐるとてろへ木戸口をてしらへて、中け見ら透やうに相當つて居ります、是れなん丹波太郎の件臣で御座ひます、勝手の方へ廻つて　柵「妾しどもは旅の修行の女連れの者、何卒れ宿をれ願ひ申しから御座ひます」と頼みました、スルと取次の者が奥へ參つて再び出て參りまして、取次「足を洗って此方へ出で」と是から足を洗はせ奥の一と室へ通しまして、味噌汁に澤庵の御馳走、飢たる二人は喜んで之を食し、其處に寢みました。

東京電報(四日)

●朝鮮王族の服制 今回朝鮮王族の服制を定め各殿下相當の服制を定めらるゝ事は多分二月十一日の紀元節に發表さるべし

◎二日の貴族院 三日の貴族院は頗る平凡に終れり

●政局一轉と任用令 政局一轉に伴ひ文官任用令改正案出づべしとの説に對し貴族院某は曰く任用令の一部改正は朝野の共に希望し其の必要を認めざるにあらざるも協成立後直ちに斯かる案を提出する事は政府の拒絕に遭へば所謂情意投合に水を差す嫌あるを以て其の交渉實現は何れ幾多の時日あるべし其改正は内閣改造が必要的政務官の設置位の所に落着すべしと

●豫算査了 豫算會に於て審査中の豫算案は全部本日九日を以て査了する筈なり

●商法改正案修正 商法改正案は貴族院に於て多少の修正ありたり

●特許辯護士復權 過般特許辯護士規則の發布と共に其の特權を削減したる在朝鮮特許辯護士復權の件は過日小川、松田の兩代議士外數氏の紹介により今期議會に請願中なりしが三〇四個の採擇條件にて元田代議士より寺内總督に直接交渉し其結果總督は其一部に承認したれば該問題は圓滿に解決を見るに至るべし

●師團長會議 師團長會議は愈々三月一日より開會する事に決し陸軍大臣より各師團長に對し夫々召集狀を發せり

●政友會の通牒 政友會は政府と提携したることを全國各支部へ通牒

●茶業組合の大會 來る六日より農商務省會議室に於て開會の茶業組合中央大會に農商務大臣より同會に諮問すべき事項は輸出茶の改良に關し今後特に注意すべき事項如何

●比律賓の大暴動 比律賓島のミンダナオ島に一大暴動蜂起し其の勢頗る猛烈にして多數の在民は虐殺され危險の襲撃甚しく容易に鎮撫の見込なし

●米國軍隊の急派 米國政府は比律賓島大暴動鎮撫の爲め軍隊一千人を同島に急派したり

雜報

●李王德壽宮訪問 既報の如く李王殿下には四日午前十一時尹德榮子を從へ德壽宮に成らせられたるが午後三時三十分御歸邸

●政務總監の訪問 山縣政務總監は四日午前十一時大觀亭に大久保司令官を訪問す

●王世子と侍從武官 前侍從武官長男爵趙東潤氏は李王世子の侍從武官たるべく申請中の處今回認可さる

●司法官召集期 昨年併合問題の爲め司法官召集を見合せ居たるが來る三月始めより京城大邱平壤の各控訴院長檢事長各地方裁判所長檢事正三十餘名を司法部に召集することゝなれり本年は併合第一回の會議なれば舊韓國政府と統監府時代の法律命令其他諸法律取調委員會に於て連日協議しある民刑事に關する新問題も多々あれば數日間を要すべく何時頃にか本年四月司法省に開催の全國司法官會議の提案及執務方法等に就て協議すべしと云ふ

●東拓の改革案 東洋拓殖會社の改革案は近日の議會に於て提出さるゝ筈なるが其内容は金融部の擴張を主とするものにて朝鮮に於ける各農工銀行の資金を充實せしむる計畫の由にして日本の勸業銀行が内地の農工銀行に對するが如き關係たらしむるものなりと云ふ(京城)

●關門の對鮮貿易 門司及下の關に於ける一月下旬の朝鮮貿易は左の如し(移出(朝鮮への移入)超過を示す)(單位圓)

▲門司港

	下旬	一月以降累計
移出	五四、一七七	一三一、六五五
移入	三二、二九三	三四、二四七
合計	八六、四七〇	一六五、九〇二
移出超過	二一、八八四	九七、四〇八
金銀移出	二、〇〇〇	一〇、〇〇〇
移入	一七五	一、一一七
移出入超過	二、一七〇	二、五六〇
[illegible]	二、一六〇	四、二〇〇

▲下の關港

	下旬	一月以降累計
移出	二一、五三二	三一、七三九
移入	九〇、五四二	一、二二八、五五五
合計	九九、六一六	二三九、四八三
移入超過	一三六、七七八	一、五三三、〇〇八
金銀移出	四四、三〇六	一、〇〇四、〇四三
移入	一二、五〇〇	三九、二五〇
[illegible]	八、七四四	四七、二九七
[illegible]	三二、九〇六	二〇、四一五
[illegible]	九六、九一七	三二〇、七六七
[illegible]	三二三、二二	一三七、一二五

●材木市場近況 安東縣材木市場の近況を聞くに前後十日間に於て數萬二萬餘速價格三四萬圓の木材の手合せありしが要は舊曆年末の爲めならんも昨年のそれに比すれば頗る好人氣なるは聊か慶すべき事として採公書局は此の商況を永々持續せしめん爲め遠慮すると共に販路の大擴張を試みて以て鴨綠江材の前途を益々良好ならしめんとて目下準備中なりと云ふ

●阪神の對鮮貿易 大阪及び神戸に於ける一月下旬の朝鮮貿易は左の如し(單位圓)

▲大阪港

移出品價	二三九、五三〇
移入品價	一〇四、〇五九
合計	四三一、五七九
移出超過	五五、四六一
移出金銀貨	一八八
移入金銀貨	一六、九〇四
合計	一七、一三八
移入超過	一六、七六三

△移出重要品 綿布 七、二三五 淸酒 三五、一五一 總索叺莚 四、四五一

▲移入重要品 米 四八、六九八 豆類 七七、五六九 牛皮及水牛皮 二〇、五〇四

▲神戸港

	下旬	一月以降累計
移出品價	六七、七七七	一五一、九三八
移入品價	五五、八〇五	一六六、三〇五
合計	一二三、五八二	三一八、二四三
移出超過	一一、八〇二	……
移入超過	……	一四、三六七

●大城戸秘書官辭任 總督府秘書官大城戸宗重氏は今回辭表を提出したる旨發表せらる

●鈴木穆氏轉任 度支部司稅局長の同氏は近々内地の某要職に轉せらるゝ由なり

●小川翁二氏の就任 元農商工部事務官小川翁二氏は爾來歸省中なりしが去月二十三日渡來し今回美術品製作所支配人に就任せり

朝鮮分析所成績

主任岡宗治氏談

▲設立の動機 當分析所設立に就ては素より世間の嘯する如く韓國銀行の向ふを張り或は堂々たる大銀行を敵として戰はん抔の意志毛頭なく謂はゞ多年の經驗により本事業の確實にして將來の有望なるを衷心覺知せる爲めに外ならず要するに分析事業は從來韓國銀行の獨占に屬し一方政府に對する同行の責任斤量あれば這般同業者の現出するは多少の打撃たるべきを以て斯くは誤解の焦點となれるものゝ如し

▲開業後の成績 客年十二月二十五日の設立に係かり時恰かも結氷期に際せるを以て未だ充分の成績を示す能はず而して過去一ヶ月間の取扱高は十二貫八百四十匁强にして此金額五萬一千百九十圓なりしのみ然れども準備尚ほ成らず又各方面に對する取引關係不充分なりしに拘はらず兎に角斯の如き成績を示めし得たるは多少前途に光明を認め得べく此事は年第一銀行に任りて此方面に知巳を有する爲なりと信じ私かに感謝し居れり

▲韓銀との關係 何人も知る如く韓國銀行は地金買收の爲め日本銀行より五十萬圓無利子貸付の特典を受け其責任として六百五十貫目の地金を供給する契約あり然るに地金の產出及京城に集まり來る數量は自から限りあるを以て勢ひ同業者の現出は同行の歡迎せざる所なり茲に於て當分析所の設立せらるゝや同行より種々の交渉を申込み來り結局地金一匁々四圓九十七錢を以て一切を買取り而して此間に於ける便宜を與ゆべき相談ありたるも斯くては到底存立困難なるを以て爾來睨み合の裡に經過し居れり

▲京城の地金仲買 地金のは多く仲買の手を經て分析所に集まり來り直接所有主より買取を要求するものは殆んど絕無なりしが近來交通機關の發達と仲買經由の不利なるとを覺知し本人の來所漸く多きを見るに到れり是れ大に歡迎すべき現象なりとす今京城に現在する仲買の主もなるものを擧ぐれば左の如し

李守敬、崔錫柱、金觀泳、朴尚悅、朴寨性、金洛榮、金秦亭、趙學元、陳昌洪、朴潤錫、申順之、張潤基、朴士烋、柳光灼、朴永勳、李鍾模、安復潤、朴泓僖、

等にして地方民は總て此仲買の手に托し仲買は家に相當の溶解器を備へ金塊として分析所に提供し來るものなり

▲將來の希望 設立後日尚淺く前途未知數の間に在るも多望の將來を有するは之を斷言するに憚らず現在の處にては上述の如き少額なるを以て收支相償ふの域に達せざるも着々内部の整頓を計り一般顧客の信賴を博するに到らば更に大に擴張して金銀銅鐵鉛の分析試驗をも行ふべく私かに希望し居れり

▲地金純金比例 地金の品位は產地により多少の優劣あるが如く當分析所により取扱ひたる地金より純金の平均分量を算出すれば地金の價格は一匁三圓九十九錢弱に當るを以て純金の現有分量は八割强に當れりと云ふ

●民團稅制調査會 民團議員選擧の爲め中止の有樣なりし民團稅制調査會は四十四年度の豫算案編成に至大の關係あるを以て來る十五日頃開會して差當り來年度の豫算に關係ある稅率に就き調査する由なり

●民團の豫算編成 京城民團の四十四年度豫算案は目下理事者の手に於て編成中なるが歲出の部は來る二十日頃迄に全部結了する筈にて夫より歲入の部に着手する豫定なるが四十四年度の重なる新事業として小學校の增築、市區改正等は經常歲出を以て支辨せず從つて歲入に於ても新稅を起さゝるのみならず穢物掃除費の如きは之を廢止し又た龍山側に於ける家屋稅の如きも勿論廢止する筈なるも歲入豫算案は稅制調査會の意見を參考とすべければ細目に亘りての豫算案は必ずしも本年度の稅目を踏襲する能はざるべしと云ふ

●東上委員の消息 穀類移出稅撤廢運動の爲め在鮮商業會議所聯合會より派遣したる山口太兵衛、奥田貞次郎の兩氏は三日着京したりとの報あり

●仁川俱樂部例會 仁川俱樂部は來る十日午後六時より同樓上に於て第四回例會を開き藤村忠助氏の韓國農事經營に就ての講話ある筈なり因に先月新に赴任したる仁川裁判所藤堂判事は本月より仁川俱樂部に入會し岩崎仁川民長は今回孔子一冊藤公餘影一冊を仁川俱樂部に寄贈せられたり

●明石總長の訓示 既報の如く四日午前十一時警官練習所に於て短期教習生の卒業式を行ひたるが明石警務總長、中野、亥角兩警務官等臨席し明石總長より訓示ありたりと云ふ

●防疫心得書配布 警務總監部はペスト豫防に關し二十二ヶ條に亘る詳細なる注意書を印刷に附し京城は勿論各道、府、郡、洞、面、里に隈なく配布したり

●惡疫豫防講話 當民團に於ては近日醫師に囑托しペスト豫防の講話會を開演する筈にて當日は衞生組合長を始め市民の重立者に參聽の案内を也と

●衞生組長會議 滿洲に於けるペスト猖獗を極むるに因り朝鮮に於ても官民協力して豫防に努めつゝあるが捕鼠方法に關して警察側と民團側と協議したる結果各衞生組合を督勵して捕鼠に全力を注がしむる筈にて一兩日中に衞生組長總會を開く由なり

藤田院長の講演(一)

▲ペスト豫防心得▼

本講演開催の趣旨は當局者の防疫事務に聲援致し度い希望でありますから私共の本講演が幸に其希望の幾部を達することを得ば誠に本懷の次第に存じます學理的方面は森安博士より詳しく講演がありますから私は極卑近な使用人又は召使等の方に御話し下されば直に實行の出來ます御話をして御參考に供します此ペストと云ふものは即ち人間と鼠とが方々へ病毒を移し歩くと云ふことは既に確かに證明せられて居る事實に申せば人間と鼠とか居らなかつたならば市街地にペストの黴菌は蔓延することが出來ずして枯死するのであらふ、夫れで人間を本位とせば鼠が傳染の媒介を爲すものであるから勢ひ此の鼠を全滅せしめなければ吾々は安心が出來ないことになります斯ふなりますが鼠の方でも人間を殺してペストの豫防をしやうとやないかと樑の下などでいろ〳〵相談を致して居るかも知れませぬ夫れで此ペストは一

如何なる徑路を以て傳播するものなるや

と云へば人間と鼠とのみに限つたものではに之に屬しまして其病毒がペスト患者の用ゐた器具とか物件とかに附着しまして皆此媒介をなすものでありますから此等に就きて細密なる注意をなし豫防の計畫をれ立てになれば容易に其目的を遂せらるゝ者であります虎列拉とか窒扶斯とかは川の上流で汚物を洗ひ夫れから其病毒を流したならば其病毒はズット下流にまで廣がり行くものでありまするがペストの傳染は之れと違ひまして其種を播くものが頭の黑いものでありますから流行時になりますと彼地に一人此地に三人と云ふ風に飛び〳〵に患者が出來る其取締りが惡るいと所謂鼠算で次第に蔓延するものです斯ふなつて來ますと故個人〳〵の豫防のみにては到底實効を奏することが出來ませんから勢ひ國家の防疫機關の大運轉を開始するの必要が起るので現に警務總監部に於ては鴨綠江の左岸で以て憲兵警察官及其他の傭人をして向ふから朝鮮に這入つて來る處のものを監視して人間や品物を充分に檢査をなし隔離所の收容、消毒等あらゆる手段を採りて豫防に努め内は驅鼠を獎勵し平素は無價物として疾視せらるゝ鼠が一疋飛びに〳〵三錢とか五錢とかで買上げらるゝ樣な個人では出來ない事を國家で行ひつゝあるのであります併し前述べた次第ですから國家の防疫に一任して安心して居ては濟みませぬ國境守備の兵力と市街保安の警察は日夜寸分の休みなく活動して居りますけれども御互に夜は門を鎖し戶締をなし倉庫内の貴重品は鎖鑰を付けたる處に容れて盜賊の豫防をして居るではありませんか即ち

二 吾人如何に活動すべきや

吾人は國家防疫機關と相俟て

と云ふ問題に移るのです私しが臺灣に於ける實驗に徵すれば既に病毒が國境を超へて入り來り其地方流行地となりましては一家なり一市城なり個人が完全に豫防の計畫を立て之れが實行を爲せるもの其慘害を免かれて居ります之れと反對に放任して少しも注意を仕無いものは大切な主人や妻君を失ひ或は愛兒を喪ひ漸次家政が衰ひまして再復活の出來ないやうになります又大にしては延ひて商業に影響し一般の不景氣となります夫れで此豫防としましては實驗上極めて判りやすい又實行し易い御話をして見ませふ、夫れには順序を立てゝ着手しませんと冗費徒勞が多くして得る所が少なふ御座いますから私は假りに此豫防を三期に別けて以て着手の順序を立てます

●本道の防疫會議 藥師川京畿道警務部長はペスト豫防の爲め淸國人の渡來と密輸入品の防止上海岸警備の急速實施の必要を認め開城分隊長交河、水原、仁川、永登浦の各警察署長を同部に召集し本道沿岸警備に關し防疫方法を決議したりと

●梅ヶ香丸入渠 三菱造船所にて修繕中なる關釜聯絡船對馬丸は來八日修繕を終り回航すべく梅ヶ香丸は五日修繕のため入港の筈なり尚半年後には關釜聯絡船として三千噸級二隻增加し得るを以て壹岐對馬の内一隻は靑森函館間の聯絡船たるべしと

●名所舊蹟の保存 歷史上及び後世龜鑑とすべき價値ある古社寺に對し朝鮮總督府に於て之れが保存法を規定すべく草案中なりしが既記の如くなるが今回更に古刹の外に名所舊蹟に對し其所有者に於て之れを永久に保存し能はざるものは之れが保存費を總督府より支出して適應の保存法を講ずべき協議成り目下內務部地方局に於て其立案中なる由なるが右制度の發布迄は多少の時日を要すべしと云ふ

●龍山憲兵出張所新設 二月一日より龍山山下町に龍山憲兵分隊出張所を新設されたり

●京城產婆學會發會 在京城產婆同志相計り今回京城產婆學會創立の爲め五日正午十二時より壽町日本人商業會議所に於て設立總會開催の由

公人私人

▲伊藤慶太郎 百卅銀行鎭南浦支店長三日入京浦尾

▲齊藤英夫(憲兵大尉)同上

▲朝倉[illegible] 日新[illegible]
▲大久保[illegible]
▲千々岩[illegible]
▲天地丸
▲秀吉丸
▲[illegible]朝丸
▲永田丸 同
▲天地丸 同

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 三日の分 乘車客 五五二 下車客 五九二 乘車賃金 一二六八、五八、

▲南大門荷扱高 三日の分 發送 一五六噸 到着 三九〇噸 貨物賃金 七九五、一二

▲龍山驛乘降客 三日の分 乘車客 二〇四 下車客 一八二 乘車賃金 二九一、一四

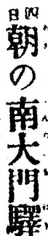
▲龍山驛荷扱高 三日の分 發送 一九七噸 到着 二九四噸 貨物賃金 六五一、七六

▲京城手形交換高▼

月日	枚數	金高
二月四日	二六〇	四五、二六四、九一

▲治外法權▼

▲世人の煽揚と自惚とで一時世界的無冠の帝王の如くなつたルーズベルトが此頃或事件の爲めに渺たるカンサス州の知事に謝罪をした、之を以て見ても人間の榮枯盛衰は昨を以て今を測るべからざるものであるのだ▲輿論、輿論、ルーズベルトが曾つて評判の良かつたのは彼れが輿論の側に居つたからだ、而して今日彼れが不評判になつたのは輿論から離れたからだ▲ソコに行くと流石に桂侯は偉らい、侯は輿論の無視すべからざるを知つて政黨と結んだ、之れ侯が永く政界に盛名を専にする所以だ、輿論と我寺內總督、其關係はドウか▲官紀振肅を併合を實行した總督は僅かに輿論の側に居つた、而して現在に於ける我總督は果して輿論の側に居るかドウか▲新輸入の秀才有吉が病氣の故を見て止めるとか止めぬとか愚圖々々して居る中に同じ輸入の秀才大城戶秘書官が之亦た病氣の故を以て止めた、新輸入秀才と病氣とは何だか附物の樣だ▲財政顧問時代から相應に働いた鈴木穆が內地の某要職に轉ずるソウだ、年少氣鋭聊かペダンチックの傑はあるが其勤勉なる、其淸廉なる所朝鮮役人中に在て稀に見る傑物であるだ▲穆にして去んか其後釜は誰れか、鰻上りの順送りか、ソレとも新輸入か、遠莫鈴木の轉任が事實とすれば何にしても惜いものだ▲民會の招集が近日にあるソウだすテ第一に起るべきが議長問題であるのだ▲目下の議長候補として最も呼聲の高いのが海津で次が和田、高橋原等であるのだ原は下關市長時代に水道問題で鳴らした者だ、尤も其水道問題で水がスンダか濁つたかは知れやだ



活動寫眞　視聽子

四日 **朝の南大門驛** 朝の戸を繰れば、何時か降りけん淡雪は、白妙の衣展べたらん如く、欄に倚りて故園の春光を偲びて、幾春秋の異城の落魄、**今日ぞ節分**とや、またも過ひぬる身こそ愛たてき極みなりける。感慨の胸を擁して無意識に停車場に入れば、斜き日の光りは一面に照り渡りて、風塞さの思ひぞする。手荷物扱所には、僅四五の行李あるのみにて、待合室を見廻はせば、寥々たる人影に淋しさは身に泌む。**小舗の女**、**髪を撫で〜**、鶴入の**蜜柑**、**黄**に冴ゆる色が美しい。鮮人の武官に見送られた、武官**朴斗榮**氏は、一等室に立ちて、正に新義州方面に向はんとして種々談話を交へて居る。**外國婦人**(三三)人、**金髪**を旬はせて、相對して團形に語りつゝあるも樂しさうだ。午前九時、釜山行列車は、晴れたる空に響笛の音も静かに離れ去つた。同九時十分、新義州行列車も出た、さぞや彼の地は寒ぞ深からん、旅寢の人も心せよ。驛を出づれば、またも雪はちら〜と軸の上に。

米吉井門に逆戻 ▽[illegible]督府の雇なるが故に甚だ不埒なりと云はざるを得ざるべからざるが故に[illegible]總

[illegible]とは更に不都合ならずやと[illegible] **野村某**と云ふがあり此の男は元來伊藤統監の給仕として公の身邊に近侍して居た[illegible]仕の身分で實**行の伴はざる趣味向上**で[illegible]**收入も增加**したるより此所に初めて[illegible]**抱負を實行**する機會に到着し[illegible]**井門樓の米吉**[illegible]**相談**は[illegible]借金を踏み倒して[illegible]**姿を隠**したのを熱心な捜索に依り**明治町の下宿屋**に居ること判明して米吉は井門樓に逆戻りて曰く「[illegible]」**南門湯の三十分**[illegible]**石鹸の餘**[illegible]**土百姓だ**[illegible]**女の兒**[illegible]**子供は無い筈**だが「**あれさ犬の兒**」[illegible]

い温泉に飛び込んで**博多節**を吐く**其聲虎の嘯く**如きが本人連も最後だ、田舎節の若者は「やア、僅に當地の景氣は何うで「れ喇」になりませんなア明日**仁川**へ行きますよ」「仁川に何か儲口があるんですか」「いやペストの御蔭で**バラック**の建築が始まるんで出掛ける積りさ」「ペスト大明神と云ふ譯だね」「ハ、、、、、」身體を洗ひ終つて僕は陸へ出た、姿見に映つた顔は甚だ[illegible]だ。

化たりナ 杢兵衛 〜チレツ度いと粋客を園んむ花柳の妓共のねてさも樂しげに語る一日、今日は何でも與様にと朝まだきより結びし理想の丸髷で仇姿は見るから笑ふ分の日に當り藝娼妓となるも是れには曰くある事なれど丸髷其もは敢て喋舌の要もなく雜まで隠くすと云へど[illegible]塗りは八、九、七十二しかくすは不思議でならずども粋客をしてげに……[illegible]りな先づ處は南山町の**文之助**は若咲き返り嫁で髪は新風、帶は結び此の花婿は鍋道**一幅**律義正しく上下を**秀香**は[illegible]爵八に伴れられ今日はいとも静々歩み行く**茂松**は鏡山のたはつ風が止めばよい姿し[illegible]は寺子屋長松変の**笑太郎**の子稚ど前後して**春江**の(花嫁の妹)と永樂町幾久代**雛奴**は[illegible]惡まれ姑の婆に付き歩き御得意先きの御に御足勢千萬なり**花月擲翠開進亭井門**のお化けは美事に出來たが次號

●**仁川の厭世自殺** 仁川京町三丁目三十六番居住愛媛縣宇和郡宇和島町二百七十三番戸芝田友太郎(三八)は三日午前十一時五十分頃自宅二階にて自殺を遂げ居るを隣家に居住する同人の親戚なる竹岡定衛(三七)が發見し其筋へ届出たるより前田部長久木田警察醫と共に出張取調べたるに二階座敷に蒲團を敷き北枕に右を下に一兩手を胸部に當て兩足を延ばし絶息し居り其枕邊の机上に妻子の寫眞を祭り辭世の歌の如きものを白紙に記し神棚に供へ置きたり檢死の結果毒藥を服せし覺悟の自殺にて原因に就ては死人に口なしにて判然せざるも前記竹岡は前日本人の依頼により京城南大門通り二丁目山本與四郎と云ふ本人の從弟の處へ書狀を持ち行き同人の返書を取り三日十時著の列車にて歸宅したるに芝田方は内部より戸締りをなしあるより數回呼びたるも何等の返答なきより不審を起して戸を外して屋内に入り二階に上りたるに前記の始末に大に驚き屆出たる次第にて今山本よりの返書を一見すれば本人は何心中の煩悶を訴へたるものらしく其に對し山本が慰めたる意味の書狀なりき尚本人は如何なる理由なるか先月妻子を内地へ歸國せしめ一人にて其日を暮し居りたる由附近の人の話によれば先頭より相場に手を出し失敗の餘り鬱々として厭世を起したるならんとの事にて辭世らしき歌は

青々としける芝田のちりゆくも　秋ぞきたりし時せつかな

世の中になにもさだめはなけれども　身のちりゆくも定期かな

とはサテモ隨分暢氣で御座るよナア

●**寡婦の不心得** 南部廣通坊上茶洞六統九戸池召史(三八)は毎夜三味太皷を鳴らし人の出入繁く殊に身分不相應の飾りを爲し居る擧動不審なるより銅峴分署刑事内探せしに昨年二月夫死亡以來寡婦となりしが辯護士李兌宇氏の妾となり居る内昨年十二月李辯護士は詐欺取財にて檢事局に拘引されし故遂此方密淫賣を爲し居る事判明本署に呼出嚴重不心得を諭し放還せり

●**各署の鼠買上數** 各署三日の捕鼠買上數北部署二百六十二西大門分署二百一南部署九十七東大門分署五十八洞峴分署四十七水門洞分署三十四龍山署十六同憲兵分隊十三なり

●懲役二年 山口縣吉敷郡小縣町三百六十七番地當時住所不定品川與一事小松與十が昨年十二月平壤驛前松岡旅館止宿人の金側時計一個(代七十餘圓)を窃取龍山驛に下車龍山警察に逮捕され餘罪取調中留置場より逃走後山口警察署に取押へられし事は既報の如くなるが彼は右の外に昨年八月三十日午前一時より三時迄の間に於て龍山本町一丁目吉川旅館止宿人朝鮮駐箚軍經理部付一等主計松本源吉氏の金二圓入外一點外二點の所持品八十餘圓の金品を窃取十二月二十五日午後六時頃も田村富藏方に忍入り金四百餘圓入手提金庫を窃取したる事判明檢事局に送られしが京城區裁判所にて懲役二年六ヶ月

●豫審終決 熊本縣熊本市安西縣通り四十三番戸當時永樂町二丁目建部政喜(二七)は昨年十一月頃より中ノ新地元日ノ出樓藝妓三村はやのに現を抜し互に惚れ合ひ夫婦約束を結びはやのを落籍せんと金策に運動せしも意の如く行かず煩悶中昨年十二月日ノ出樓が其の筋より營業停止となり爲めに他に住替への必要起りたる際落籍を擬せんと奇坂町鳴戸樓に前借金三百圓三ヶ年の年期にて住込ませ翌夜はやのを引出し逃走して大田にて取押へられ詐欺取財犯として檢事局に送られしが豫審終決して公判に廻さる

●賭博 黄金町三十九番戸難波常太郎(四三)森本義一(四五)太平町一丁目原田久米之助(四〇)愛媛縣人當時龍山印刷局職工菊池定一(三二)の四名は三日午後七時より十一時迄金錢を賭し博奕を爲し洞峴分署に檢擧され目下取調中

●**東京大相撲** 初日(四日)の取組は左の如し(三日發)

柏戸	八甲山	大の川	伊勢濱
梅の花	近江富士	山泉	鳳
紫雲龍	鏡川	相生	(蓄放駒)綠島
大蛇潟	有明	朝嵐	玉椿
大ヶ汐	雲龍	浪の音	國見山
上ヶ海	瀧の音	西の海	黑瀨川
佐賀川	平の石	南國	大刀山
立浦	鶴渡	高見山	梅ヶ谷
十三潟	千年川	常陸山	大鳴門
碇浪	陣立		
綾島	土州山		
八島山			

●横領者處刑 長野縣下伊那郡飯田町千二百二番地當時本町一丁目雜貨商井手三郎氏方店員奥田角次郎(三三)が龍山陸軍官舍若林某外二十餘人より集金したる金六十餘圓を桃山遊廓紀の國屋娼妓玉の森に現を拔し横領消費して檢事局に送られし事は既報の如くなるが京城地方裁判所に於て懲役五ヶ月

●敷島便り 敷島一昨日の定期檢梅は洗滌を要する者五人入院一人にて其他は無事同夜の遊客は三十五人にて百四十七圓五十七錢

●仁川の鼈鑑 仁川花房町二丁目川向永之進方田口一次は一昨日〇時三十分より午後一時の間に自宅前に乾し置きたる銘仙袷一枚と瓦斯手織の袷一枚を窃取せられたり

日曜集會

●京城基督教會 日の出町同教會にては五日午前九時より日曜學校同十時より米澤牧師の禮拜說敎「人生の滿足」午後七時より同牧師の傳道說敎「人格の力」

●微笑會例會 初音町二丁目臨濟寺にて五日午後三時より例會無需雅論提唱ある由

●報恩講說敎 若草町一丁目曹洞宗南大本山別院にては五日午後七時より菩提寺大師の月忌に付田中主任の說敎並に和讃あり

●日本メソヂスト教會 旭町三丁目同教會にては五日午前九時半より日曜學校聖書研究同十時半より木原牧師の禮拜說敎「獄中のヨセフ」午後七時より同牧師の傳道說敎ある由

●**演藝だより**

●京城座 引續き十五錢均一の爲め毎夜札止の盛況を呈せる兄弟義團五日の藝題は義俠の犯罪李七幕十二場にして

●浪花館 好評ある大坂女義太夫越之助一座五日の語り物は 御祝儀壽入船(入登)鈴ヶ森(濱助)日吉丸三段目(越濱)日蓮記三段目(若大)岸姫松三段目(十佐濱)梅野由兵衛聚樂町(源八)菅原四段目(高助)先代萩御殿場(常十才越子)三勝半七酒屋(越之助)總掛合彌次郎兵衛喜多八東京出立の段(三味線大三竹本三越)

▲**平民文庫**▼

▲岡山縣人會を催す計畫なきや(伺生)●▲京城郵便局電話交換手伍長渡邊光枝さん〇〇さんには妻子がある云々の投書は沒とす(係)▲近頃そはやの評判が高いから乃公も一寸試して見たがいかさま繁昌なことで御座る哩、何がさて美しいのを傍に引き附けたがる排々斗りの世の中だから飲み食いの代物は惡くとも女さへ美ければ夢中になつて浮れ込むのだ併かも遲くからなら注文があると待合にも出前が行く樣子だ何でも儲儲が肝腎だ乃公も眞面目をサラリと止めて仇な酌婦を僱かすばなるまいズンベラ〜(鍋飩樓兵衞)▲錦さん妙に憤慨したナ(小僧)▲京龍間にて諸小說澤山れ賣り成さるれ方は有りませんか若し販賣成さるなら當欄迄住所及氏名御通知下さい早速御相談に能り出ます、他行生)▲相生町噌々窟主人足下、匿名を以て御紹介仕候段多罪本名は黄金町中程浮世料理店横入る戸村に候(村雨)▲今回永登浦の驛長が交代したに付いて新任驛長の御機嫌取りの爲めに驛員は荷主、運送屋、中買屋に强制的に其の歡迎會を催さしめた云々の長い投書が來た事實らしく思へる當局者は取調べた上相當戒飭して貰しからふ(係)●▲雪が降る雪が降る此の冬程雪の多い年も稀れだ雪が降る雪が降る秋の豐年を想ふ閑は我々にはない此の寒さに此の目前の饑を何んとしよう、下を焚かぬ温突は冷い▲人は稼ぐに追付く貧乏なしと云ふが貧乏の方が一足先きへ行つて居るので稼げば稼ぐ程貧乏に追付くことになるのだから情けない(行商人)▲追ひ拔いたら何うですか(小僧)▲再選を自認したる議員連の落選は於氣の毒と中外無し是竟畢自認ヲ然らしむる處ならん吾々市民は是より多端なる當市に比較的頭腦明斷なる新氏を得たるを喜ぶ新議員たる者各自代表の義務を遂行し育從議員たる勿れよ敢て忠言す(京城市民代表者)

今日の運勢

二月六日舊正月八日八白丁未友引執△一白 衰運たり諸事慎みて目の事旅行金談婚談轉住に忌む負傷衞生注意△二黑 屈伏要求にあふ事あり其他平和の日進んで吉△三碧 晉信上又は家庭上に煩累ある事あり婚談新事旅行協商轉住に忌む△四綠 沒要領の日新事婚談談判運動合同の事効無し農林業には進んで吉△五黃 新事婚談に忌む他の事進んで吉酒色賭事を戒しむ△六白 旅行轉住に忌む利得便宜ある日業務上進んで吉△七赤 訂約修交熱涌婚談協同結社の事遂行に住し色情の破れを戒しむ△八白 情義に驅られて累を貽す勿れ諸事手控への事盗失遺失防ぐべし△九紫 旅行轉住に忌む談判取組み婚談取引交涉談合協同の事に好し(本町五丁目三一館判斷)

大日本勸業株式會社株式募集廣告

第一回拂込(資本金貳千萬圓)金額四分之壹

創立趣意

輓近經濟上に於ける發達の顯著なるに伴ひ政府地方自治團体組合等の財政頗に膨脹し來り巨額の資金を需要すること日に益〻加はれる而已ならず更に民間に於ける各種産業の異常なる發達は大規模の産業的事業の企劃を促進し既存の事業家に在りても亦世運の進歩に伴ひ事業擴張生産力進歩の必要に逼らるゝあり資金の需要は愈〻益〻增加し來れるを以て豊富なる資金の供給は今や國運發展の一大要素たるに至れり而して一方國民富力の趨勢も亦如上産業の發達に隨ひ年と共に激增し來り既に資金として各種事業に放下せられたるものありと雖も動もすれば適當の用途を得ず其利用を完うする能はざるあり加ふるに最近世界交通上の進歩と我が國情國力の普く世界各國に稔知せられたるとに因り外資の移入相繼て行はれんとし資金の適當なる用途を求むることも亦甚だ切なるものあり資金需給の形勢夫れ斯の如し

故に此需給二者の中間に立ちて鞏固なる基礎を有し敏活懇切に媒介の業務を執る機關の存するあらば啻に二者を利するのみに止まらず産業の發達を補け國運の伸長に資すること蓋し尠少ならざるべきを信ず然るに現今我邦に在りては未だ眞に能く此須要に應ずる特種機關の設けなく僅に日本興業銀行日本勸業銀行各府縣農工銀行等の在るありと雖も之等は各特有の事情の下に特殊の組織目的を有するものにして未だ適切に如上の須要に應じ難きの憾あり例へば政府國債を募集せんとするも之れを信託すべき適當の機關なきが爲めに臨時に組織せられたる「シンヂケート」に託し「シンヂケート」は更に之れを第三者に移して漸く目的を達するを得るが如き極めて不便不利の方法に據らざるべからず爲めに事の敏活を缺くのみならず經費に於ても比較的多額を要するを免れず是れ豈國運の展上の一大缺點に非らずして何ぞや而して日韓併合は既に實現せられ朝鮮に於ける財界の多端なる活動は前途洋々として日々切なるものあるを覺ゆ茲に於て我々同感の者相圖り此の國家的須要に適應するの一機關を創設し以て此の缺點を補はんとするの日既に幾何矣今や企劃愈〻熟せしを以て茲に株式組織に依り會社を創立し左記の項目を以て營業を開始せんとす

(十一科目)

一、不動産抵當貸付
二、府縣郡市町村其他法律を以て組織せる公共團体に對する無擔保貸付
三、工業資金の貸付并に仲介
四、有價證券の賣買
五、國債證券、地方債證券、農工債券、其他の社債券及株式の應募引受并に取扱
六、有價證券の委託賣買
七、國債、地方債及社債に關する信託
八、有價證券の受渡代理行爲并に代理交換
九、保險に關する代理行爲并に諸會社又は諸商店の業務經營組織、及帳簿の整理、信用の調査其他の信託業務
十、預り金及保護預り
十一、手形の割引

上叙の如く本會社業務の目的は主として内外資本家及事業家の中間に立ち資金の需要供給を圓滿ならしめ以て相互の便益を計り本邦産業の發達を助長し專ら國運の伸長に資せんとするに在り

一、募集株數 貳萬株

總株數貳拾萬株の内拾八萬株は發起人並に賛成人に於て引受確定

一、申込證據金

壹株に付き金參圓とす

一、申込期限

明治四十四年一月廿五日より二月六日迄

一、申込場所

下記取扱銀行并に當事務所

一、募入方法

申込株數超過の場合其割當は委員長に於て之を定む

一、確定株

株式引受の確定せられたる諸君は前諸項に依り御拂込相成度候

一、定款及申込用紙并に當會社の本領書等は取扱銀行及當創立事務所に備付有之候

明治四十四年一月

東京市麴町區有樂町壹丁目壹番地馬場先通

大日本勸業株式會社創立事務所 (電話本局三九九一番)

創立委員長 加藤增雄

申込取扱銀行

東京	三井銀行
同	三井銀行深川支店
同	十五銀行
同	第一銀行
同	第百銀行
同	安田銀行
同	第三銀行
同	豊國銀行
同	明治商業銀行
同	常磐商業銀行
同	川崎銀行
同	丁酉銀行
同	北濱銀行東京支店
同	村井銀行
同	東海銀行
同	浪速銀行東京支店
同	浪速銀行蠣殼町支店
同	東京銀行
同	農工貯蓄銀行
同	肥後銀行東京支店
同	八十四銀行
同	四谷銀行
同	十二銀行東京支店
同	麴町銀行
横濱	三井銀行横濱支店
同	第一銀行横濱支店
同	平沼銀行
大阪	鴻池銀行
同	浪速銀行
同	北濱銀行
同	百三十銀行
同	三井銀行大阪支店
同	第一銀行大阪支店
同	第一銀行西區出張所
名古屋	名古屋銀行
同	明治銀行
同	愛知銀行
同	第一銀行名古屋支店
神戸	三井銀行神戸支店
同	第一銀行神戸支店
同	第六十五銀行
京都	三井銀行京都支店
同	第一銀行京都支店
同	京都商工銀行
伏見	第一銀行伏見出張所
兵庫	第一銀行兵庫出張所
新潟	新潟銀行
同	新潟商業銀行
和歌山	四十三銀行
同	三井銀行和歌山支店
長崎	三井銀行長崎支店
門司	三井銀行門司支店
下ノ關	第一銀行下ノ關支店
廣島	三井銀行廣島支店
四日市	第一銀行四日市支店
北海道	北海道拓殖銀行
朝鮮京城	第一銀行京城支店
同	百三十銀行京城支店
朝鮮釜山	第一銀行釜山支店
同	十八銀行釜山支店
富山	十二銀行
同	第四十七銀行
舞鶴	百三十銀行舞鶴支店
福井	百三十銀行福井支店
福岡	十七銀行
熊本	肥後銀行
博多	百三十銀行博多支店
仙臺	七十七銀行
同	宮城商業銀行
山口	周防銀行
金澤	十二銀行金澤支店
岡山	鴻池銀行岡山支店
高岡	十二銀行高岡支店

以上七十三行

發起人

(イロハ順)

發起人二百廿七名〇印は創立委員

[illegible]

賛成人

侯爵 朴泳孝　男爵 伊丹春雄　福原有信　伯爵 板垣退助　早川源太郎　長谷場純孝　子爵 尹德榮　安達謙藏　村井[illegible]雄　伯爵 廣澤金次郎　德田孝平　岡烈　杉原榮三郎　子爵 李夏榮　柴四朗　小野金六　男爵 二條正麿

箕浦勝人　大木遠吉　村井貞之助　安樂兼道　侯爵 尹澤榮　福田又一　千阪高雅　辻[illegible]吉　子爵 堀田正養　利光鶴松　古川孝七　男爵 野田豁通　土居貞彌　太田信義　男爵 趙義淵　菊池長四郎　綱谷鎌太郎

伯爵 李址鎔　岩村兼善　中山佐市　男爵 松平正直　小林清一郎　井澤吉五郎　男爵 長松篤棐　佐々木文一　朝吹常吉　男爵 李載克　關淸英　加治壽衛吉　男爵 金宗漢　小河源一　藤野房次郎　男爵 紀俊秀　木下謙次郎

南條新六郎　阿部彥太郎　男爵 杉溪言長　伯爵 閔泳璘　小池國三　務見貞館　子爵 朴齊純　粕谷義三　永松達三　男爵 北大路實信　賀田金三郎　男爵 藤小路觀春　男爵 李根澔　男爵 若王子文大　肥田景之　小出約

其他貴族并に銀行家政治家等にして賛成株主たるもの六百四十二名
